

山田 陽翔さん
YAMADA Haruto

佐藤 魁良寸さん
SATO Kairasu

ワング イブラヒム イルングさん
WANGU IBRAHIM IRUNGU

江川 李生さん
EGAWA Riki

陸上競技部の活躍 歴史を変える挑戦者～敢闘を越えた先の感動を～

毎年11月に開催される全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県の熱田神宮から三重県の伊勢神宮までの8区間、106.8km)は、出雲駅伝(出雲全日本大学選抜駅伝競走)、箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)とともに「大学三大駅伝」と呼ばれています。本学陸上競技部は、この全国大会に通算30回、6年連続で出場する強豪チームです。また、出雲駅伝の北海道学連選抜には6区間のうち5区間に本学の選手が名を連ね、さらに全国に門戸が開かれた箱根駅伝(第100回記念)の予選会に挑戦するなど、確かな実力とチャレンジ精神を兼ね備えたチームの活躍は、在学生、卒業生、教職員に元氣と勇気を与えています。

この強さの背景には「高校時代の先輩のようにサツガクに入って記録を伸ばしたい」(山田さん)など、大学でさらに成長したいという意欲に溢れたメンバーが各地から集い、選手層が厚いこと。そして「自ら設定した目標を達成してチームメイトを助けるとともに、一緒にタイムを伸ばしていきたい」(イブラヒムさん)というように個人とチームの目標を関連付け、その達成を通じてチームに貢献しようとする姿勢。あるいは「大会直前に新型コロナウイルスに感染して心が折れそうになったとき、後輩の一言で気持ちを切り替えることができた」(江川さん)など、学年を超えてお互いを尊重し、認め合い、チーム全体で切磋琢磨しようという雰囲気があります。

このように北海道王者として群を抜く実力を備えたチームですが、未だに達成できていない目標があります。それは、全日本大学駅伝において一本の襷(タスキ)をつないでゴールすることです。これを實現する上で、箱根駅伝への挑戦は大きな意義があったようです。「全国との差を肌で感じられる機会になった。この経験はチームとして強みになる」(佐藤さん)、「予選会では出場メンバーがそれぞれ指示されたレース展開、タイムで走ることができた。自己ベスト更新者も多く、参加してよかった」(江川さん)など、全国の強豪と間近で競い合う貴重な体験を通じて、積年の課題を克服する確かな手応えをつかみ、モチベーションが高まったようです。



Q. 今年度のご自身のパフォーマンスを振り返ってください。

江川 李生さん(経営学部会計ファイナンス学科4年/戸西高校出身):全日本大学駅伝で1本のタスキを繋ぎ、過去最高順位を更新するため、この1年間、主将として何をすべきかを考え、行動してきました。しかし、直前に新型コロナウイルスに感染し、走りチームを引っ張ることができなかつたことが悔やまれます。新年度は今まで一番強いチームになると思うので、次期主将を中心に学年を超えたコミュニケーションをさらに強化し、チーム一丸となって頑張りたいと思います。長距離は努力がすべてです。走った分だけ強くなり、成長を実感できる素晴らしい競技です。中学1年生から10年間、競技を続けてきましたが、応援してくれた両親に感謝しています。社会人になってもロードレースなどに参加し、1位を獲って両親に恩返しができるのであればいいなと思っています。

ワング イブラヒム イルングさん(経済経営学部経営学科3年/札幌山の手高校出身):母国のケニアで9歳からマラソンを始めました。中学校卒業後に来日し、高校、大学と陸上競技を続けています。昨年度は怪我をしてしまい、全然走ることができませんでした。今年度はケニアに帰ってトレーニングを行い、9月に日本に戻って箱根駅伝の予選会に出場しました。予選会では目標を達成することができましたが、直後に開催された全日本大学駅伝に影響が出てしまい、よいパフォーマンスを発揮することができませんでした。今は3年生なので、よい走りができるようにまだまだ頑張りたいと思っています。サツガクの陸上競技部はみんな仲が良いです。特に主将の江川さんに感謝しています。日常生活や大学生活でわからないことがあればいつも助けてくれます。

佐藤 魁良寸さん(人文学部こども発達学科3年/札幌稲雲高校出身):1年生で怪我をしてから結果が出ず、同学年のチームメイトに追いつき、追い越したいという思いで練習してきましたが、3年生となった今年度は飛躍の年となりました。3000m障害で全日本インカレに出場し、全日本大学駅伝では長距離を任せられ、箱根駅伝の予選会に出場するなど密度の濃い1年でした。しかし、全国の場に立って関東の大学との差を肌で感じました。今は、全国を目指す選手から全国で戦える選手になりたいという気持ちです。怪我の治療やリハビリでお世話になった先生や理学療法士の方々には心から感謝しています。また、チームメイトからの「また一緒に走りたい」「チームで待っている」という言葉に支えられ、乗り越えることができました。そして、日常的にサポートを受けている両親に一番感謝しています。結果で恩返ししたいと思っています。

山田 陽翔さん(経済経営学部経営学科2年/久慈東高校出身):全日本大学駅伝の北海道予選では優勝に貢献することができました。しかし、その後の怪我で、出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝の予選会はいずれも走ることができませんでした。昨年度は出雲駅伝と全日本大学駅伝を経験した自分が果たすべき役割を果たせず、チームの力になれなかったことは大きな悔いとして残りました。「もういいんじゃないか」「やめようかな」と挫折しかけたとき、声をかけてくれたのはチームメイトや家族でした。その支えがあって「折れてはダメだな」という決意がつき、今の自分がここにいると思っています。新年度は怪我をすることなく、目標タイム(5000m13分台、10000m28分台)を目指し、選手としてチームに貢献するよう頑張りたいと思っています。

取材日:2023年12月20日

IKEUCHI GROUP・株式会社 Local24 と包括連携協定を締結

IKEUCHI GROUP（代表取締役社長：池内和正氏）・株式会社 Local24（代表取締役会長：廣瀬丈矩氏）と本学は2023年7月25日、包括連携協定を締結し、IKEUCHI GATE（札幌市中央区）にて調印式を行いました。

2022年10月に竣工した最先端のスマートビルディング IKEUCHI GATE では、この連携の一環として、本学の支援により高速かつセキュリティの高い「eduroam」と「OpenRoaming」の2つのWi-Fiサービスの提供がスタートしました。本学は、キャンパスを訪れる一般の市民向けに世界で初めて大学キャンパス全域でOpenRoamingサービスの提供を開始した大学です。そして、株式会社 Local24 は既に日本各地でeduroamとOpenRoamingに対応したWi-Fiサービスを構築・運用しており、豊富な経験を有しています。

調印式の中で河西邦人学長は「多くのスタートアップを創出し、世界の経済を引っ張るような北海道になっていくためにはイノベーションを生み出すことが必要だと考える。そのイノベーションを生み出すために、IKEUCHI GROUP、Local24と包括連携協定を締結し、この北海道を素晴らしい大地にしていくチームの一員になれたことを非常に嬉しく思う」と述べました。

現在、新札幌地区全域にeduroamとOpenRoamingに対応したWi-Fiサービスを提供することの可能性について協議を重ねています。これが実現すれば、学外でのフィールドワークに伴う制約が軽減され、より柔軟な教育・研究環境が築かれるでしょう。

なお、IKEUCHI GROUPには「新さっぽろコスプレフェスタ」の開催時に、OpenRoamingでWi-Fiを簡単に利用できるアプリのご案内・ご協力もいただきました（本誌3ページ）。

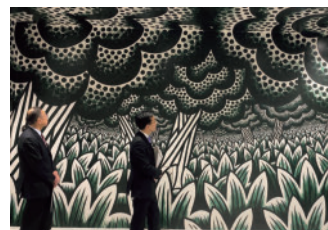
※「eduroam」は各大学等で相互接続しているキャンパスWi-Fiの仕組みで、学生・教職員が利用できます。

※「OpenRoaming」は、世界中の公衆Wi-Fiサービスを1つのアカウントで利用可能とすることを目指す連携基盤です。



大和リース株式会社北海道支店と包括連携協定を締結・BiVi 新さっぽろ内覧会に参加

大和リース株式会社 北海道支店（支店長：稲垣仁志氏）と本学は2023年11月28日、知的・人的・物的資源の活発な交流と活用を目的に包括連携協定を締結し、新札幌地区に新たにオープンした商業施設「BiVi 新さっぽろ」内のBiVi PARKにて調印式を行いました。河西邦人学長は「新さっぽろの再開発にあたり、掲げられている『SDGsを意識した住み続けられるまちづくり』というコンセプト、SDGsが目指すその先には、地球、そしてその地球で営みを行う生物のウェルビーイングがあると考える。今回の連携協定を締結することで新さっぽろを丸ごとキャンパスにし、新しい経済、文化、福祉、社会の好循環を創出し、そこでウェルビーイングな市民がより活躍できるよう連携していきたい」と抱負を述べました。



調印式終了後は、BiVi 新さっぽろ内覧会が行われ、11月30日のグランドオープンに先駆けて施設内の洗練されたコンセプトや先進的な設備に触れ、今後の連携に対する期待が一層膨らみました。

木古内町と包括連携協定を締結

木古内町（町長：鈴木慎也氏）と本学は2023年9月20日、地域振興の発展や人材育成、並びに両者の資源を効果的に活用することによる教育研究の発展と教育の推進、これからの社会で活躍する人材の育成などを目的に包括連携協定を締結し、木古内町にて調印式を行いました。



調印式終了後は、「地域と大学との協働による地域活性化」と題して、河西邦人学長による記念講演会が開かれました。講演会には鈴木町長のほか、役場職員、報道機関の方々が多数参加され、連携協定への期待の高さがうかがえました。

その後、連携事業の一環として12月中旬に本学人文学部人間科学科の臼杵勲教授、大塚宣明講師、学芸員課程の履修学生らによる調査チームが同町を訪問しました。町内の遺跡から発掘された出土品等の調査を実施し、文化遺産の保存・継承の具体策、地域活性化への活用方法等の検討を行いました。

北空知信用金庫と包括連携協定を締結

北空知信用金庫（理事長：池内英二氏）と本学は2023年11月24日、両者の資源をさらに効果的に活用し、SDGsの達成と次世代を担う人材の育成、地域活性化の推進を目的に包括連携協定を締結し、深川市にて調印式を行いました。

北空知信用金庫からは、本学で開催される高校生ビジネスプランコンテストの地元出場校に対してご支援をいただいているほか、本学の講義やゼミナールへの北空知信用金庫職員の講師派遣、また北空知信用金庫の地域活性化策への本学教員によるアドバイス等により連携を深めてきました。今後は、同金庫における学生インターンシップの受け入れのほか、教育・研究に関する情報交換等の相互交流や地域における経済動向や企業動向に関する情報交換、講演会やセミナー等の開催を通じて連携を強化して参ります。



第48回学術講演会～講演と音楽の夕べ～

第一部 講演「音楽の起源を訪ねて～音楽考古学への誘い」

講師：札幌学院大学人文学部こども発達学科 枡谷隆男教授

第二部 スペシャルライブ

演奏：海洋ゴミ楽器集団 ゴミンソク

2023年11月18日、「人はなぜ音楽を奏でるのか」をテーマに掲げ、白老町のしらおい創造空間「蔵」にて「第48回学術講演会～講演と音楽の夕べ～」を開催しました。

本学人文学部こども発達学科枡谷隆男教授の講演では、過去の遺物としての楽器と、そこから奏でられる「瞬間芸術」としての音楽との関係を探求する「音楽考古学」の面白さが語られました。続いて「海洋ゴミ楽器集団ゴミンソク」によるライブ演奏が行われました。海辺や河川敷に落ちているゴミからオリジナル楽器を製作し、演奏する独創的なスタイルは、テレビ番組「情熱大陸」に取り上げられるなど反響を呼んでいます。大正時代に酒蔵として建てられた歴史的建造物を会場に、50名の参加者は音楽の起源を訪ねる講演に聴き入り、美しいアンサンブルに魅了されました。

開催にあたって、お二人の卒業生にご協力いただきました。一般社団法人SHIROAI PROJECTS (SHIPS: シップス)の代表理事として白老町の活性化に尽力されている山岸奈津子さん(2003年人間科学科卒)には「ゴミンソク」の招聘や当日の運営等にご協力いただきました。そして、アートディレクターとして活躍され、一般社団法人えべつ観光協会の専務理事として江別市の観光振興にも取り組まれているヤマザキケイタロウさん(1997年社会情報学科卒)にはポスターやチラシのデザインを手がけていただきました(ヤマザキさんには本誌7ページの「卒業生この人」にもご登場いただいています)。地域で活躍する卒業生の今後にも期待がふくらみます。



新さっぽろコスプレフェスタを開催しました

2023年9月17日、新さっぽろコスプレフェスタ(通称「シンサツコス」)を開催しました。

当日イベントは、本学の学生有志から、学生目線による新さっぽろ地区の活性化を目的とした「コスプレイベント」を行いたいとの相談を受けたことがきっかけで、一般社団法人新文化経済振興機構の運営のもとで、株式会社札幌副都心開発公社、新さっぽろ副都心商店会の協力により、実現しました。

当日は700人近い参加者がアニメや漫画のキャラクターに扮し、商業施設で撮影や買い物を楽しむ中で新たな交流の場が生まれ、地域に新しい刺激がもたらされました。

イベント開催中は、参加者が快適な時間を過ごすことができるよう、本学と連携協定を締結しているIKEUCHI GROUPよりOpenRoamingでWi-Fiを簡単に利用できるアプリのご案内・ご協力をいただきました。多くの参加者がWi-Fiアプリをダウンロードし、高速かつセキュリティの高い通信環境でSNSなどの利用を楽しみました。

イベント終了後には写真コンテストが開催されました。一次審査には多くの応募があり、その中から学生実行員会が最終審査に進む23作品を決定しました。最終審査はサンピアザ光の広場で行われ、審査を市民の方々が参加できる形式にすることで、市民目線での地域の魅力や特長を見出すきっかけとなりました。



こども食堂「もくきち」の運営に協力しています

本学は2022年度より、厚別区にあるこども食堂「もくきち」に学生ボランティアを派遣しています。「もくきち」は、地域の子どもはもちろん大人も「温かいご飯を一緒に食べよう」がコンセプトで、毎月1回、夕食の提供を行っています。

ボランティアには教職や保育士を目指す学生が参加しています。月に1度の機会ですが、子どもたちとおにごっこをして遊んだり、一緒に夕食を食べたりと、楽しいひとときを過ごしています。

昨年度はコロナウイルスの影響で中止・規模の縮小が余儀なくされたイベントが数多くありましたが、今年度は七夕まつりやハロウィンパーティー、クリスマス会が通常通り開催され、どのイベントも子どもたちの笑顔溢れるものとなりました。



クラブ & サークル

弓道部

弓道部は、男子 25 名、女子 12 名の計 37 名で活動しています。今年度は、創部 50 周年を迎えることができました。2023 年 11 月 11 日にホテルポールスター札幌にて行われた 50 周年記念式典・祝賀会では、部員や OBOG、来賓など総勢 93 名の皆様に参加いただきました。式典では今までの歴史を振り返り、祝賀会ではビンゴ大会などを通じて楽しく交流することができました。創部に関わった監督や OB の方からお話を聞いたところ、当時は弓道場もなく自分たちで仮設の弓道場を作って練習していたそうです。先輩たちの頑張りや様々な方の協力があり、現在は立派な弓道場がある全国でも名の通った強豪校となっています。



ソフトテニス部

ソフトテニス部は 2021 年に創部 50 周年を迎えることができました。これもひとえに、大学関係者、総勢 400 名を超える OB、保護者のほか、当部に関わってくださった全ての皆様のお陰だと思っております。

2023 年 11 月 25 日、ホテルエミシア札幌にて、50 周年記念式典・祝賀会を開催し、式典には OB やソフトテニス連盟、学校関係者の方々など総勢 123 人が集まりました。

今後も「社会に通用する人間形成」を目的に、目標である悲願の全日本大学王座決定戦での優勝を成し遂げるため、日々の練習に取り組んで参ります。



学科トピックス

臨床心理学科

友野典男氏をお招きして行動経済学に関する学術講演会を開催しました

新札幌キャンパスでは心理学部と経済経営学部がそれぞれの専門性を活かした教育を行い、学部横断的な連携も展開しています。2023 年 7 月 8 日、行動経済学の関連著書が多数ある友野典男氏をお招きし、学術講演会を開催しました（行動経済学は両学部の学問を融合した分野です）。当日は 82 名のお申込みをいただき、アンケート結果も大変好評でした。



人間科学科

「人間を科学する」多様な学びを発信しています

人間科学科は「共生社会の担い手を育成する」という学科目標のもと、ソーシャルワーク専攻、心理・教育専攻、地域文化専攻の 3 専攻があります。教員ごとに開講される専門ゼミナールのテーマは、差別、ジェンダー、子どもの活躍から、河童伝承やサケを背負ったクマの話まで、実に多様です。「学びのつぼ〜人間を科学する」というタイトルで、それらの一端を本学公式 YouTube チャンネルで動画配信していますのでぜひご覧ください。



英語英米文学科

学生のアカデミックな活躍

2023 年 10 月 21 日と 22 日、江別キャンパスで「日本アメリカ文学会第 62 回全国大会」が開催されました。学生 17 名がキャンパス案内や研究発表教室運営の補助等を担い、この大会をサポートしました。

学生たち自身の学修では、7 月に 1 年生と 2 年生が「ポスターシンポジウム」を行い、研究成果を発表しました。写真はそのときの様子です。



こども発達学科

現役合格者続々、「こどもまんなか社会」の即戦力に

コロナ禍の影響が心配された本学科の就職内定率は、2023 年 11 月末日現在で前年度同日よりも 30% 近く上回るペースで 84.8% に達しました。内定率の押し上げに大きく貢献したのは、教員採用試験（教採）の現役合格者の増加です。教採は受験者の 7 割超にあたる 17 名が合格し、北海道、札幌市の他、宮城県でも合格者を輩出しました。早くから教職担当の教員へ熱心に面接指導を請う姿が見られ、「初志貫徹」がこのような成果につながったと思います。



学生がモデルハウスをプロデュース

経済経営学部では、株式会社ロゴスホールディングスと協力連携協定を締結し、札幌市厚別区の宅地に協働でモデルハウスを建築する「モデルハウスプロデュースプロジェクト」に取り組んでいます。公募で選ばれた経済経営学部3年生の6名が、専門家のアドバイスを受けながら、マーケティングに基づいた企画立案、住宅デザイン、販売営業活動を担当し、モデルハウスの完成・販売を目指します。学生たちのアイデアが詰まったモデルハウスは2024年3月頃に一般のお客様へ公開される予定です。

モデルハウスプロデュースプロジェクトの詳細は本学公式ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。



法律学科

公務員戦線で奮闘する学生たち ～中間速報値で合格者50名突破～

今年の公務員試験も終盤戦に突入していますが、法律学科の合格者はすでに50名を越えました。国家公務員一般職1名、国税専門官1名、労働基準監督官1名、北海道職員12名、札幌市職員1名、北海道警察17名、北海道教員2名等、合格者が相次いでいます。夢の実現を目指して、最後まで諦めず力を出し切ってほしいと思います。



会計ファイナンス学科

資格取得にも意欲的です

会計ファイナンス学科では、専門性を高めるために資格取得を推奨しています。特に、資格にリンクした簿記の指導（講義）は1年次で行われますが、卒業まで挑戦を続ける学生も少なくありません。

2023年12月20日、2014年に本学会計ファイナンス学科を卒業し、現在は税理士法人に勤務する長坂玄太さんと法人代表をお招きして講演会を開催しました。その中で、簿記に関する知識・技術はビジネスに不可欠であり、その実力は資格のグレードで表現されることが多いので、挑戦することを強く勧められていました。



経済学科

「新さっぽろ」の今を体感する経済学特別講義

経済学特別講義は、第一線で活躍されている方々を講師としてお招きして講演いただくスタイルで行っています。今年度のテーマは「新さっぽろのこれから」。新さっぽろエリアの再開発にかかわった様々な関係者、すでに新さっぽろにかかわりのある既存施設の方々に講演いただきました。その中には2005年に本学経済学科を卒業し、現在はホテル、「ラ・ジェント・ステイ新さっぽろ」の総支配人として活躍されている八木橋悟さんもいます。講演後は活発な質疑が行われ、学生も積極的に参加し、受講者全員でこれからの新さっぽろを考えました。



経営学科

専門科目「プロジェクト実践」 新札幌で地域貢献活動を実施しました

経営学科の実践的科目として、学生がアフターコロナで地域住民とのつながりを増やすため、2023年7月22日に子ども向けの夏まつりを開催しました。当日は保護者を含め77名の参加があり、「クイズ大会」「ボウリング」「ストラックアウト」「輪投げ」など、学生手作りのゲームで大盛況となりました。今回のイベントを企画し、運営したことで、学生の成長にも繋がりました。写真は経営学科の学生が真剣な眼差しで準備を進めている様子です。



教員採用試験、既卒者も含めて40名が登録

2024年度採用の教員採用試験には、北海道、札幌市のほか道外を含め、現役4年生から小学校15名、中学校社会2名、中学校英語5名、高等学校商業1名、高等学校地理歴史1名、高等学校英語2名、特別支援学校7名の計33名、既卒者7名（小学校、中学校社会、中学校英語、特別支援学校）の合計40名が登録されました。11月16日には、合格者の努力を労い、その経験を教職課程全体のものにするために、「教職をめざす学生交流会」を開催し、情報交換を行うとともに、後輩学生も教員への決意を新たにしました。



ふるさと江別塾

ふるさと江別塾は、江別市と本学を含む江別市内4大学が共同で運営するリレー講座です。2023年10月21日、「(認知)言語学への招待」(真田敬介人文学部准教授)と「情報に関するリテラシー」(大國充彦経済経営学部教授)の2講座が3年振りに対面形式で開講され、40名以上の市民が参加しました。講座終了後は活発な質疑応答があり、参加した方々の意欲の高さがうかがえました。



保護者懇談会について

今年度は、9月に地方会場(旭川、函館、青森)、10月には本学で約370名の保護者の皆様をお迎えて開催しました。

全体説明会では、教育活動や就職活動、学生支援について、個別面談では、学生の修学状況(単位修得・成績など)について説明しました。



コミュニティ・カレッジ講座について

社会連携センターでは、大学の知的資源を市民に還元するための講座「コミュニティ・カレッジ講座」を開設して2024年で25年目を迎えます。2023年度の講座では、600名を超える市民の方々が教養講座や英会話講座などで学んでいます。写真は本学心理学部大宮秀淑教授の講座「効果的な『脳トレ』最前線」の様子です。

コミュニティ・カレッジは開設以来、3万1千名を超える皆様に受講いただき、大変好評を得ています。2024年度前期の講座は5月開講です。詳しくは、3月下旬に前期講座向けに更新されるコミュニティ・カレッジのホームページをご覧ください。同窓生、在学生の保護者の方には受講料の割引制度がございます。



教員著書紹介

『子どもの「貧困の経験」：構造の中でのエージェンシーとライフチャンスの不平等』

大澤真平(人文学部人間科学科准教授)著

出版社：法律文化社
 出版年：2023年5月
 ISBN：978-4-589-04275-0
 定価：3,960円(税込)
 頁：159ページ

「子どもの貧困」という言葉が広く一般的に使われるようになって15年ほどになります。しかし、肝心の子どもの視点でこの問題を描いた「研究書」はほとんどありませんでした。本書は8年間におよぶインタビュー調査を用いて、子どもの側から貧困の中に生活することの意味と影響を明らかにしたものです。



『子どもの権利条約と生徒指導』

川原茂雄(人文学部人間科学科教授)著

出版社：明石書店
 出版年：2023年4月
 ISBN：978-4-7503-5572-6
 定価：2,310円(税込)
 頁：237ページ

2022年に文部科学省が発行した『生徒指導提要』の改訂で「子どもの権利条約」の内容の一部が掲載されました。学校の生徒指導にも「子どもの権利条約」の理念を活かさなければなりません。この本は、教職課程の「生徒指導論」のテキストとして書いたものですが、広く教育や生徒指導について関心のある方々にも読んで頂きたいと思っています。



国際交流について

2023年7月3日より、海外協定校の国立高雄大学（台湾）より学生32名と教員2名が来学し、教養ゼミナールとの合同授業や合宿企画など、約2カ月間に亘る学生交流プログラムを実施し、学生同士の交流を深めました。

2023年度後期より国立高雄大学へ約半年間、交換留学していた安田冬馬さん（法律学科2年生）は、台湾での留学生生活をスムーズなものにするため、学生交流プログラムに積極的に参加し、交流関係を築きました。

国立高雄大学での留学生生活を終え帰国した安田さんは「様々な場面で学生からのサポートを受け、安心して毎日を送ることができました。超初心者レベルの中国語で挑戦した留学でしたが、学んだ中国語を活かす場が常に身近にあり、自分の成長を日々実感でき、充実したものとなりました。これからの人生に活かしていきたいです」と述べています。

本学はこれからも継続的に海外協定大学との交流活動を推進し、国際交流の輪を広げ、学生が多様な文化や価値観に直接触れ、視野を広げられるよう支援していきます。



台湾で最も大きな湖である「日月潭」を訪れた安田冬馬さん

卒業生この人

株式会社プリオン代表取締役
株式会社commons fun社外取締役
一般社団法人えべつ観光協会専務理事 山崎 啓太郎さん



山崎啓太郎さん
(1997年社会情報学部社会情報学科卒業)

株式会社プリオン代表取締役・グラフィックデザイナー、株式会社 commons fun 社外取締役・アートディレクター、一般社団法人えべつ観光協会専務理事などの肩書を持ち、1997年に社会情報学部社会情報学科を卒業された山崎啓太郎さん。現在の仕事に就くきっかけや仕事に関するエピソードをお聞きました。

Q. 現在の仕事に就くきっかけを教えてください。

学生時代はアップル社が開発したパソコン「マッキントッシュ」の導入期で、社会情報学部の先生にお願いして触らせてもらいました。画像も音楽もデザインできる自由で高い操作性に衝撃を受け、このパソコンを使える職に就きたいと思いました。最初に就職した印刷会社でデザインを学んだ後、デザインを専門とする現在の会社に転職しました。その後、江別市文京台に転居したのですが、周囲に自分の子供と同年代の子が少なく、それを何とかしたい想いで地域の活動に参加するようになり、それが現在の江別市での活動につながっています。イベントの企画・運営にもデザインは欠かせないので、本業を活かせる範囲が格段に広がりました。

Q. 現在の仕事内容やこれまでに経験した仕事に関するエピソードを教えてください。

NHK 北海道で2022年に放映された「ローカルフレンズ滞在記」（ディレクターが道内各地に1カ月滞在し、その地域の魅力を伝える番組）の制作に携わったのですが、それが「グッドデザイン・ベスト100」を受賞したことが縁で「ほっとニュース北海道」（NHK 総合、月-金 18:00 から放送）のディレクションを2023年から任されています。キービジュアルのデザインや使用する楽曲の選定などを通じて番組全体のイメージを創り上げる重要な仕事で、普通は大手の広告代理店が数十人規模で担当します。それを僕ら地元のクリエイターがわずか3-4名の少数精鋭チームで手掛けることはやりがいがあり、また痛快に感じます。

Q. 札幌学院大学に入学して良かったこと、在学中の印象に残っている思い出をお聞かせください。

学生時代は放送研究会に所属していました。そこでDJをする先輩たちと出会い、その面白さにハマって大学祭などでDJブースを出していました。今も様々なイベントでDJをしています。そのルーツはここにあります。また当時はまだカセットテープの時代で、音源テープのケースデザインも自分で手掛けていたのですが、今思うとそれが何かをデザインすることの楽しさに目覚めるきっかけだったのかもしれない。

Q. 後輩である本学の学生たちにメッセージをお願いします。

「それは山崎さんだからできるんだよ」。いろいろなことを手掛けるので、時々こういう言われ方をします。でも違うんです。僕だって未経験のことはまず調べて、とにかく1回でも最後までやってみる。そして最初から結果を求めすぎない。イベントに3人しか来なくても、そのことをあえて見せなければそれは「失敗」ではなく「実績」になる。その繰り返しの中で人との出会いが積み重なり、協力関係が広がり、それまでできなかったことができるようになっていきます。

あと、ここぞというときの仕事では依頼されたこと以上の「プレゼント」を用意しておく。そういうサプライズ的な新規提案が相手の心を揺さぶり、新たな仕事につながることもあります。



山崎さんには本誌3ページで紹介した本学主催「第48回学術講演会～講演と音楽の夕べ～」のチラシのデザインを手掛けていただきました。

Information

学位記授与式の挙行について

2023（令和5）年度 学位記授与式を次のとおり挙行します。

〈日時〉2024（令和6）年3月15日（金）

〈式場〉札幌学院大学 江別キャンパス G館 SGU ホール

9時30分 開式

大学院 法学研究科 法学部 法律学科
大学院 臨床心理学研究科 心理学部 臨床心理学科

10時40分 開式

大学院 地域社会マネジメント 経済学部 経済学科
研究科

13時00分 開式

人文学部 人間科学科 人文学部 英語英米文学科
人文学部 こども発達学科

14時10分 開式

経営学部 経営学科 経営学部 会計ファイナンス学科

2024年度 大学行事等予定

	【前期】	【後期】
3月26日(火)	在学生健康診断（新札幌）	9月21日(土) 後期授業開始
27日(水)	在学生健康診断（新札幌）	リフレクション入試面接（本学）
28日(木)	在学生ガイダンス・ 在学生健康診断（江別）	26日(木) 前期末学位記授与式
29日(金)	在学生ガイダンス・ 在学生健康診断（江別）	28日(土) 大学進学セミナー（旭川） 大学院1期入試
4月2日(火)	入学式（札幌文化芸術劇場hitaru）	29日(日) 大学進学セミナー（北見） 大学院1期入試
3日(水)	新生ガイダンス	10月5日(土) 大学進学セミナー（函館・帯広）
4日(木)	新生ガイダンス	6日(日) 大学進学セミナー（青森・釧路）
5日(金)	新生ガイダンス、 新生健康診断（新札幌・江別）	12日(土) 保護者懇談会（本学）
6日(土)	新生ガイダンス	19日(土) 編入学試験（A日程）
8日(月)	前期授業開始	26日(土) リフレクション入試（面接重視型）
6月9日(日)	オープンキャンパス	11月23日(土) 学校推薦型入試
15日(土)	学園創立記念日	24日(日) 学校推薦型入試
29日(土)	大学祭	12月7日(土) オープンキャンパス
7月14日(日)	オープンキャンパス	14日(土) リフレクション入試A（自己PR）
27日(土)	大学進学セミナー（盛岡）	1月18日(土) 大学入学共通テスト
28日(日)	大学進学セミナー（八戸）	19日(日) 大学入学共通テスト
29日(月)	大学進学セミナー（弘前）	25日(土) 後期定期試験
30日(火)	前期定期試験	27日(月) 後期定期試験
31日(水)	前期定期試験	28日(火) 後期定期試験
8月1日(木)	前期定期試験	29日(水) 後期定期試験
2日(金)	前期定期試験・大学進学セミナー（室蘭）	30日(木) 後期定期試験
3日(土)	前期定期試験	31日(金) 後期定期試験
5日(月)	前期定期試験	2月3日(月) 一般入試A
10日(土)	大学院臨床心理学研究科特別選抜入試	4日(火) 一般入試A
19日(月)	夏期集中講義期間（前期科目）	8日(土) 大学院II期入試
~24日(土)	保護者懇談会（帯広）	9日(日) 大学院II期入試
31日(土)	秋期集中講義期間（後期科目）	18日(火) 転学部・学科試験
9月2日(月)	オープンキャンパス	21日(金) 卒業発表
~7日(土)	保護者懇談会（北見）	3月1日(土) 編入学試験（B日程）
14日(土)	保護者懇談会（釧路）	8日(土) 一般入試B・リフレクション入試B
15日(日)	保護者懇談会（釧路）	18日(火) 学位記授与式
		20日(木) オープンキャンパス

※なお、変更が生じた場合は、本学公式ホームページにてご案内します。

教育振興寄付のご協力を深く感謝・芳名

教育振興寄付にご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

ご寄付への感謝を込め、公表に同意をいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

■ご寄付いただいた方で、万一お名前がもれている等のお気づきの点がありましたら、誠に恐縮ではございますが、財務課寄付金担当までご連絡をお願いします。（011-386-8111）

寄付者・ご芳名（掲載承諾者・敬称略・五十音順）2023.6.1～12.31

相内 学	金谷 輝之	竹林加奈子	前田 未鹿
浅野 久男	狩野 建司	玉木 悟	松本美智子
伊佐 均	河西 邦人	中西 宏明	光武 幸
石黒 尚樹	今野 寿幸	中村 重和	三津谷辰彦
磯角かほり	坂尻 康平	夏井 裕太	桃山 光雄
磯部 将克	佐藤 武彦	原田 真一	山口 一徳
井上 俊彌	白石 英才	平山 和雄	山田 陽介
及川 英子	清野 祐子	平山 貴雄	山本 将誉
大隅 正弘	関口 貴博	福元 美佳	横山 末雄
大畑 揮義	高橋 佳恵	細谷 和司	吉川 昭

ほか匿名32名

※受配者指定寄付をのぞく

【入試情報】大学進学セミナー

進路選択、進学準備のきっかけづくりを目的に、道内主要都市および東北地方にて、「大学進学セミナー」を開催します。

大学進学セミナーでは、学部学科における学び、入試制度、学生生活、資格・就職、奨学金、一人暮らしなどについて専門スタッフがご案内しています。

日程	開催地	日程	開催地	日程	開催地
7月27日(土)	盛岡会場	9月28日(土)	旭川会場	10月6日(日)	釧路会場
7月28日(日)	八戸会場	9月29日(日)	北見会場	10月6日(日)	青森会場
7月29日(月)	弘前会場	10月5日(土)	帯広会場		
8月2日(金)	室蘭会場	10月5日(土)	函館会場		

※開催時刻、会場などの詳細は決定次第、本学公式ホームページにてご案内します。

【入試情報】オープンキャンパス

日程	
3月20日(水・祝)	【サツガク入門】
6月9日(日)	【学びLIVE!】
7月14日(日)	【学科を知らう!】
9月7日(土)	【学校推薦型選抜説明会】
12月7日(土)	【サツガク模試】
2025年3月20日(木・祝)	【サツガク入門】



なお、大学進学セミナーやオープンキャンパスについて変更が生じた場合は、本学公式ホームページにてご案内します。最新情報につきましては本学公式ホームページをご確認ください。

SNS情報

Instagram



SAPPOROKAUIV.UNIV

Pick Up!

Instagramの投稿の一部をご紹介します!

#キャンパスライフ



#札幌学院大学文京台

#新しい学期の始まり



#敦匠鳥プロジェクト

Facebook



X (旧Twitter)



YouTube



この広報紙は、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO2削減活動ならびに東日本大震災被災地復興を応援しています。